

2024 年度 JESMA 研究支援制度 研究成果報告書

一般社団法人 日本経験サンプリング法協会 殿

所属名：京都橘大学総合心理学部
研究代表者氏名：田口 恵也

この度の研究支援，誠にありがとうございました。研究成果について，下記の通りご報告いたします。

記

1. 研究課題名	向社会的な嘘の使用が自尊感情を低下させる機序の解明																														
2. 研究目的	本研究の目的は、向社会的な嘘の使用が自尊感情を低下させる機序を解明することであった。具体的には、嘘をつく頻度と自尊感情の関連が嘘がばれているという認知によって調整されるかを検証することであった。																														
3. 方法	2024 年 2 月に参加者募集用のウェブサイト（実験・調査等の参加情報、 https://www.jikken-baito.com ）を通じて募集された 109 名に調査を実施した。参加者には Exkuma を通して、LINE 上で調査用のメッセージを 1 日 1 回 7 日間配信し、状態自尊感情、その日に嘘をついた頻度（以下、頻度）、嘘の動機（以下、動機）、その嘘が相手にばれたと思う程度（露見度）について回答を求めた。																														
4. 結果	嘘の有無によって自尊感情が変動するかを確かめるために、自尊感情を従属変数、嘘の有無 (0, 1) を固定効果、参加者をランダム切片とした階層線形モデルによる分析を実施した。その結果、嘘の有無の主効果が有意であり ($\beta=-.12, p<.01$)、嘘をついている日はついていない日と比べて自尊感情が低いことが明らかになった。 次に、向社会的な嘘と自尊感情の関連における露見度の調整効果を検証するために、向社会的な嘘をついた頻度と露見度（1 日の平均）の主効果、およびそれらの交互作用を固定効果、参加者をランダム切片とした階層線形モデルによる分析を実施した。その結果、主効果と交互作用のいずれも有意ではなかった (Table 1)。 Table 1 向社会的な嘘の頻度と露見度が自尊感情に与える影響 <table><tr><th></th><th>β</th><th>p</th><th></th><th>β</th><th>p</th></tr><tr><td>個人内変動</td><td></td><td></td><td>個人間変動</td><td></td><td></td></tr><tr><td>頻度</td><td>.01</td><td>.69</td><td>頻度</td><td>.15</td><td>.15</td></tr><tr><td>露見度</td><td>.00</td><td>.96</td><td>露見度</td><td>-.19</td><td>.09</td></tr><tr><td>頻度×頻度</td><td>.04</td><td>.25</td><td>頻度×頻度</td><td>.04</td><td>.76</td></tr></table>		β	p		β	p	個人内変動			個人間変動			頻度	.01	.69	頻度	.15	.15	露見度	.00	.96	露見度	-.19	.09	頻度×頻度	.04	.25	頻度×頻度	.04	.76
	β	p		β	p																										
個人内変動			個人間変動																												
頻度	.01	.69	頻度	.15	.15																										
露見度	.00	.96	露見度	-.19	.09																										
頻度×頻度	.04	.25	頻度×頻度	.04	.76																										

5. 結論	本研究から、1日の中で嘘をつく頻度が高いほど自尊感情が低下することが明らかになった。これは、先行研究 (Preuter et al., 2023) と一貫しており、嘘の使用は人々の心理的適応を脅かす可能性が示唆された。 一方で、向社会的な嘘に着目した場合には、嘘の頻度と自尊感情には関連は認められなかった。先行研究 (Preuter et al., 2023) では、利己的な嘘だけではなく、向社会的な嘘についても使用頻度が高いほど自尊感情が低下することが示唆されていた。両者の結果の差異がなぜ生じたのかについては今後検討していく必要がある。 また、嘘の頻度と露見度の交互作用も有意ではなかった。このことから、嘘をつく頻度が自尊感情を低下させるメカニズムにおいて、嘘が露見していたか否かは関連していない可能性がある。ただし、本研究では、参加者の自己報告での認知を測定しており、実際に嘘が露見したか否かについては尋ねていない。ソシオメーター理論によれば、自尊感情は他者からの拒絶を予期した場合に低下する (e.g., Leary et al., 1995)。したがって、嘘が露見したかもしれないと個人が認知しただけで実際に嘘が露見していない場合には、他者からの拒絶を予期せず、自尊感情も低下しないのかもしれない。今後は、実際に嘘が露見したかどうか、さらにその結果として他者から拒絶されたか否か自体も測定し、改めて検討することが望まれる。
6. 引用文献	Leary, M. R., Tambor, E. S., Terdal, S. K., & Downs, D. L. (1995). Self-esteem as an interpersonal monitor: The sociometer hypothesis. <i>Journal of Personality and Social Psychology</i>, 68(3), 518–530. Preuter, S., Jaeger, B., & Stel, M. (2024). The costs of lying: Consequences of telling lies on liar's self-esteem and affect. <i>British Journal of Social Psychology</i>, 63(2), 894-908.

以上